

教 科	工 業	科 目	デザイン史
履修条件 対象生徒	デザイン科 3 学年全員		
学習目標	人間が歴史の中でもものをつくり出してきた営みを振り返り、過去につくり出されたものの中からその時代の生活や精神をくみ取ることで、過去を通して現在の自分の位置を確かめ、時代や地域の中にある自己の在り方を再認識する。		
学習方法	〔授業〕 教科書に基づき、座学を中心に学習を進める。 プリントやプレゼンテーション資料、インターネット、動画等を補助教材として使いながら学びを深める。 〔家庭学習〕 基本的に家庭学習を課さないが、予習・復習を行うことが望ましい 〔補習・その他〕 考査前には、授業範囲の復習をするとともに、Teams を使いプレゼンテーション資料の共有を行い学習の補助とする。		
学習計画 と ね ら い	〈 1 学期 〉 1 序説 デザイン史を学ぶ理由～これからのデザインを学ぶために 2 西洋のデザイン (1) 古代文明 (2) 中世 (ロマネスク・ゴシック) (3) ルネサンス 〈 2 学期 〉 (1) バロック・ロココ (2) アーツ・アンド・クラフツ運動 (3) アール・ヌーヴォー (4) ポスターの興隆・美術の革新 (5) 近代デザイン運動の試み (6) バウハウス (7) アール・デコ、アメリカ 〈 3 学期 〉 (1) 日本のデザイン (2) 現代のデザイン (3) まとめ	○デザイン史を学ぶ意義について考え理解を深める。 ○古代文明におけるデザインとはどのようなものであったかについて考える。 ○デザインの発展における宗教とのかかわりについて学ぶ。 ○ルネサンスがデザインに与えた影響について考察する。 ○時代ごとのデザインに現れる特徴的な要素やその背景について学ぶ。 ○ウィリアム・モリスの活動やアーツ・アンド・クラフツ運動の学習を通して近代におけるデザイン理念の起こりについて考察する。 ○美術の多様化や技術革新がデザインに与えた影響について学習する。 ○様々な近代デザイン運動やバウハウスの起こりとその展開について学習し、現代につながるデザイン思想の発展について考察する。 ○アメリカにおける現代デザインの展開の歴史を学習する。 ○日本のデザインの歴史について大まかに学習する。 ○現代におけるデザインの変容を学習する。 ○情報化や多様性を踏まえこれからのデザインについて考える。	
評価基準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
	古代から現代までの社会の中で、造形とデザインが果たしてきた役割について理解するとともに、関連する知識を身につけている。	各時代や地域ごとの生活とデザインの成立について理解するとともに、時代や地域を超えて影響を及ぼし展開してきたデザインの動向について、造形物を鑑賞した内容と関連付けて考察する力を身につけている。	デザインの歴史について社会や生活との関係を踏まえて理解を深め、デザインを創造し鑑賞する態度を身に付けている。
評価方法	定期考査、学習態度、課題・提出物などから観点別に総合的に判断して評価する。		